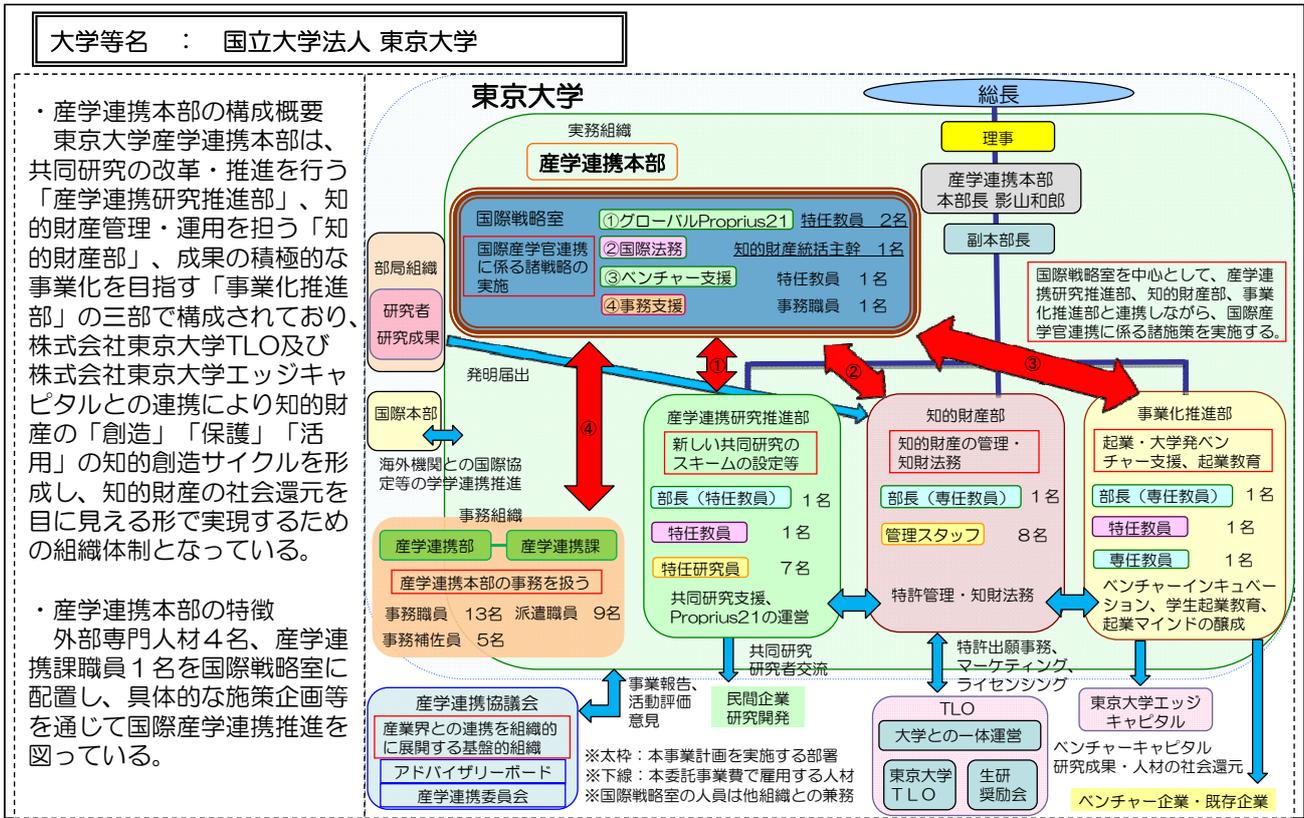


# 東京大学

## ○ 産学官連携体制図



## ○ 成果事例

### ネスレリサーチセンターとの国際産学連携

国立大学法人東京大学  
産学連携本部

#### 要約

スイスのネスレ社と連携の可能性を探索する過程で、先方の提案を受け、グローバルProprius21を用いて、健康と栄養に関する具体的なテーマ抽出と、学内研究者との直接対話によるネスレ社との接点拡大に努めてきた。

その結果、メタボリックシンドローム、感覚科学、機能性食品、食の安全、食の教育、健康的な加齢等、研究の具体的なテーマを抽出し、『食と安全』総括寄付講座として、複数部局にまたがる領域横断的な研究プラットフォームによる広範な科学の知識と高い専門性を持つ研究者が参画する体制を確立した。

#### 創出

##### 産学官連携のきっかけ(マッチング)

本学幹部によるネスレ本社への働きかけを通じて連携の可能性を探索した結果、初の海外企業による寄付講座として実現した。

##### 連携機関

- 東京大学農学生命科学研究科  
加藤久典教授、佐藤隆一郎教授(兼担)他数名
- ネスレ日本(株)  
福島洋一(R&Dプロジェクトマネジャー)

#### 2010年完成予定のフードサイエンス棟



#### 活用

##### 成果内容

##### ●国際産学連携

国際産学連携により、東京大学とネスレ社は『食の研究』で世界をリードすることを目指して、栄養・健康・ウェルネス、そして食を通じたQuality of Life向上に焦点を当て、その研究プラットフォームの一つとして、総長直轄の総長室総括委員会総括プロジェクト機構に、農学生命科学研究科の全面的な協力を得てネスレ社の寄付による「食と生命」総括寄付講座を開設した。

総括プロジェクト機構においては、初の海外企業の寄付講座となる。

「食と生命」総括寄付講座は生命科学・栄養分野から選抜された「食と生命」担当の特任教授1名と、全学から参加する研究科教員(兼担)が担当し、ネスレリサーチセンターからの研究員も協力する。今後の健康・栄養の基礎研究実現へ向けて「ネスレリサーチユニット」を学内に設置し、農学部敷地内に2010年新設予定のフードサイエンス棟に入居する予定。